

自分の書いた意見文のよさや改善点を客観的に見つけ、よりよい文章を書こうとする子どもの育成

～第6学年国語「生き物はつながりの中に」を活用した実践を通して～



上越市立大町小学校 教諭 尾矢 貞雄

1 意見文を書く授業で大切にしていること

意見文を書く授業で、私が大切にしていることは次の三つである。

(1) 「書く活動」と説明文単元の関連付け

説明的文章には、読み手を引き付けたり読み手を納得させたりする文章表現の工夫が数多くある。その表現のよさを、自分の「書く活動」に生かすことを子どもに意識させて授業を進めていく。

(2) 「書いてみたい」と思わせる資料の提示

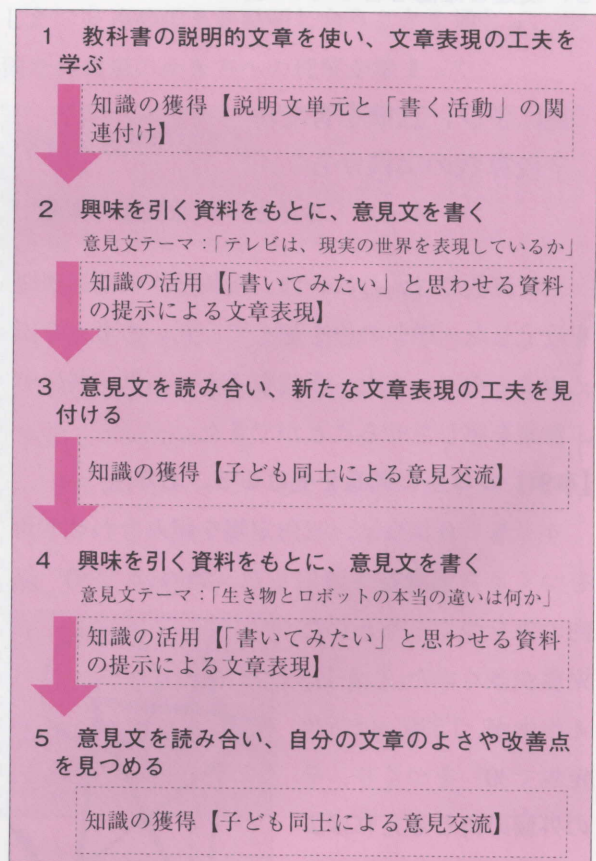
子どもの生活に身近な資料、子どもが驚きを覚えたり違和感をもったりする資料等を提示することを心がける。

(3) 子ども同士による意見交流

仲間との交流が、自分の書いた文章を見つめるきっかけを与えてくれる。仲間との交流が、自分に新たなものの見方や考え方を与えてくれる。意見交流は、話し合いをしてもコメントを書いて交換し合ってもよい。意見交流では、具体的な交流の視点を示すようにしている。

右の図は、上に示した「大切にしていること」を盛り込んだ本単元全体の構想図である。「意見文を書くために必要な知識の獲得」と、「獲得した知識の活用（書くこと）」の連続的なサイクルをつくり、単元全体を構想する。

〈単元全体の構想図〉



2 実践の概要

右ページ資料1は、「生き物とロボットの本当の違いは何か」をテーマに意見文を書く際に使用した二種類の資料のうちの一つである。（構想図4）

教材文における筆者の主張を覆すような現代ロボット技術の事例を紹介し、「生き物とロボットの本当の違いは何か」を子どもに問いかけたのである。



仲間が書いた意見文を読み、コメントを書き合う

A子は、意見文について仲間と意見交流をした時、B子から次のコメントをもらった。(構想図5)「ロボットは母親からではなく、人が作りだしているもの」という意見がよく分かりました。例を用いていることやナンバリングを使っていること、読み手に問いかける文末表現がよかったです。はじめの文を、読み手に問いかけるように書くともっとよいと思います。」

仲間からもらったコメントを振り返ったA子は、次の感想を書いた。「私一人では思いつかないアドバイスを書いてくれて嬉しかったです。気を付けて書いたところも褒めてくれて嬉しかったです。次は、最初に問いかけをするといいと班のみんなが書いてくれたので、やってみようと思います。そして、夏休みなど、おもしろい課題があったら意見文を書いてみたいです。」

3 考察

A子は、具体的な事例を用いて(事実や根拠を明らかにして)自分の主張を述べていった。こうした文章の書き方は、説明的文章の構造から学んだことである。また、子ども同士の意見交流が、自分の書いた文章を客観的に見つめる思考を促し、よりよい文章を書きたいという意欲を引き出した。読み手と書き手との率直な意見交換が、書き手の文章表現への意欲を高めたと考える。

事例①「外の世界とつながるロボット」

「ハエや腐ったリンゴを食べて動くロボット」

株式会社ワイヤードビジョンホームページ記事より
イギリスの西イングランド大学の研究チームは、自然環境に存在する物質を動力源とするロボットの開発に取り組んでいる。同大学のクリス・メルウィッチ教授とジョン・グリーマン教授は、ロボットに独自の内臓を組み込もうというのだ。

両教授が開発中の「エコロボットII」は、電池やバッテリーの代わりに、微生物燃料電池(MFC) 8個からなる「胃」を持っている。MFCにはバクテリアが含まれており、バクテリアは食物を糖に分解する。そして、燃料電池に空気中の酸素を送り(いわばロボット版の「呼吸」)、バクテリアが分解した糖と反応させることによって、ロボットのエネルギーを生成するのだ。システム全体が、生物の実際の消化作用をできる限り模倣するものとなっているのだ。

資料1

次に、A子が書いた意見文を紹介する。

最近では、ロボットが進化してきました。そして、何年か前の研究者の考えをくつがえす開発がされています。では、本当の違いは何か、私は子孫を残すことができるのが生き物、できないのがロボットだと思います。

例えば、研究者は二つのロボットを作っています。一つは、外の世界とつながるロボットで、ハエや腐ったリンゴを食べて動くロボットです。ロボットなりの呼吸をすることができます。胃をもっていて、消化をすることができますようになりました。二つ目は、一つの個体としてつながるロボットで学習することができます。人が動作を何度か見せることでロボットが学習し、真似をすることができますようになりました。さらに、人物の顔や声を記憶することができたり、どんな所へ行っても迷ったりすることがありません。すごいと思いませんか。生き物以上のことができると考えてもいいと思います。

しかし、どんなにすごくても、子孫を残すことはできません。ロボットは母親からではなく人が作りだしているものなので、いくら生き物に近いからといって、自分の子孫を残すことは不可能なのです。

私はロボットが子孫を残すことができないというのが本当の違いだと思います。